

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は厳しさを増している。

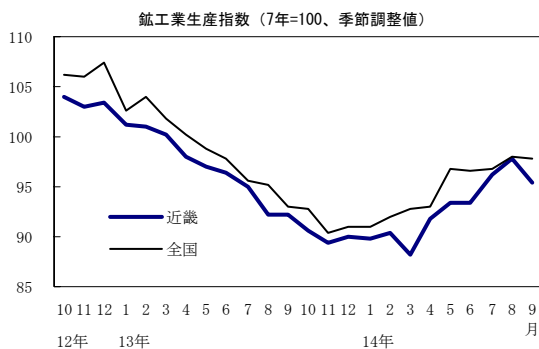
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
総括表現	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが緩やか	↓
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	↓
住宅建設	おおむね横ばい	緩やかに減少	↓
雇用情勢	依然として厳しい	厳しさを増している	↓

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電気機械は、カメラ付携帯電話、液晶・PDPテレビ、DVD、デジタルカメラ等が好調に推移している。一般機械は、国内では自動車関連に動きがみられるものの、北米向けの工作機械が低迷しており、全体としては低調である。化学は、化成品の内需が低迷しているが、医薬品は堅調である。金属製品は、建設関連向けが弱いことから低調である。繊維は、若者向け、紳士物スーツ等の衣料品が低迷しているものの、自動車用エアバッグ等が堅調に推移している。



(備考) 平成 14 年 9 月の近畿は速報値。

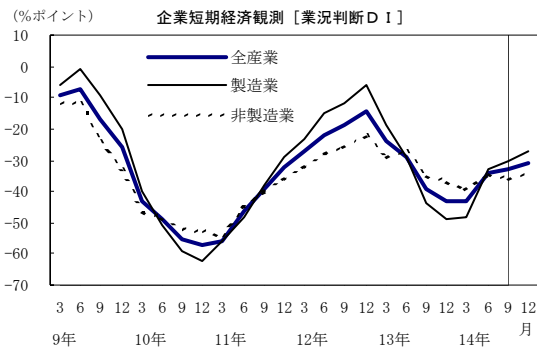
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	17.7	3.8	10.4	12.5	2.8
一般機械	16.2	4.3	1.8	1.4	1.6
化学	11.8	▲0.2	4.9	2.7	3.4
金属製品	7.3	1.7	▲8.6	▲9.8	▲6.3
繊維	7.3	▲2.4	0.6	0.9	▲2.0
鉱工業	100.0	3.8	3.9	4.1	0.6

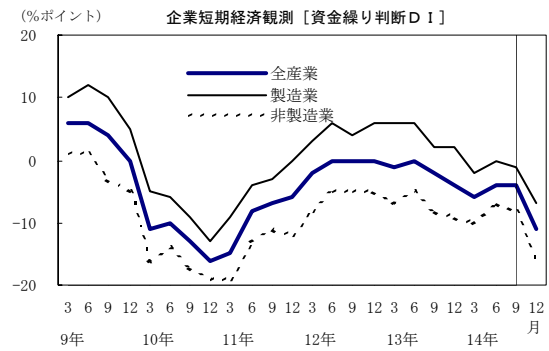
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

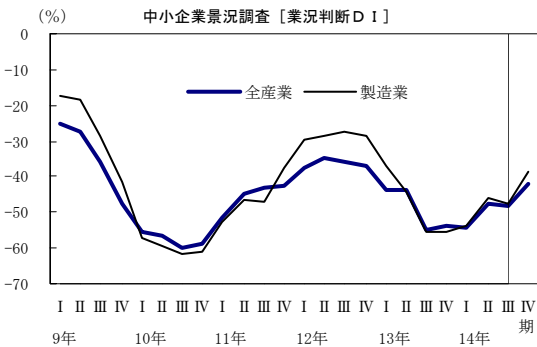
企業短期経済観測調査【業況判断DI、資金繰り判断DI】及び中小企業景況調査【業況判断DI】



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査)【企業動向関連 (現状判断)】

「戸建分譲においてはチラシを大量に入れても集客力が非常に悪く、契約に至る確率が非常に低い (建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

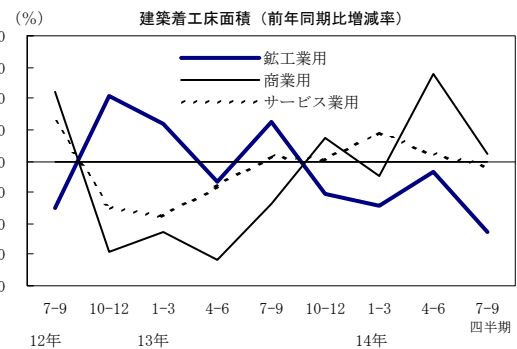
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査【設備投資 (9月調査)】

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲12.5	▲7.6( 0.2)
製造業	▲13.6	▲12.3(▲0.5)
非製造業	▲11.4	▲4.1( 0.6)

(備考) ( ) は前回 (6月) 調査比修正率。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費はやや弱含んでいる。

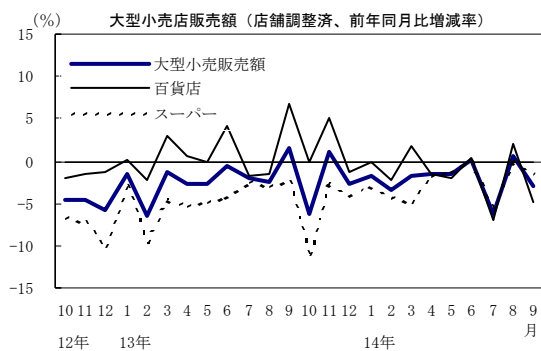
#### 大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は中元ギフトの需要減少や早期受注の反動、夏物クリアランスの不振により前年を下回り、8月は衣料品に動きがあったことから前年を上回ったものの、9月は気温が高めで秋物衣料が不振だったことに加え、昨年のプロ野球の優勝セール反動で再び前年割れとなった。

スーパーは、7月は天候不順により季節商品が不振であり、8月は猛暑の影響で夏物衣料が比較的好調だったものの家庭用品等が不振だった。9月はBSEの影響一巡等により飲食物品がプラスとなったものの、衣料品等が不振で前年割れとなった。

#### 景気ウォッチャー調査（10月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「最近特にチラシや販売合戦が激しくなり、常識を超えた信じられない低価格で販売されたりしている（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

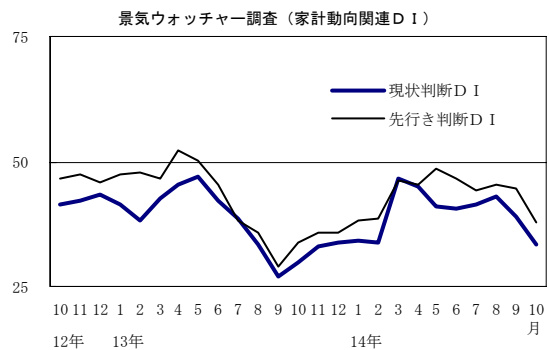
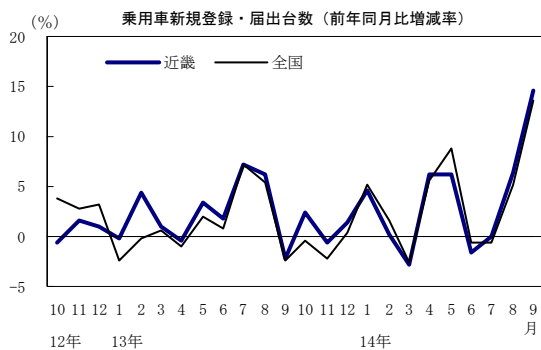


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲2.7	▲2.3	▲1.1	▲3.0
百貨店	1.0	0.0	▲1.1	▲3.9
スーパー	▲5.8	▲4.0	▲1.0	▲2.3
乗用車	1.1	▲0.2	3.1	7.0
景気ウォッチャー	32.1	38.1	42.2	41.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



### (2) 住宅建設は緩やかに減少している。

分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体では緩やかに減少している。

### (3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

